

○ こども診療所

言語聴覚療法 Speech - Language - Hearing Therapy(ST)

言語聴覚療法の特徴

話し言葉がなかなか出てこない・発音が不明瞭などの『ことば』、音への反応が乏しいなどの『きこえ』、人とのやりとりに対して苦手さがあるなどの『コミュニケーション』について、評価・検査を行い、問題となる点に対してへの支援や、保護者とお子さんに関わる方への助言・指導を行います。また、『食べること』についても、食事場面の評価を行いながら支援していきます。

言語聴覚療法の対象

0～18歳までの以下に示すような疾患のお子さんを対象としています。

神経発達症（自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症など）、精神運動発達遅滞、染色体異常症（ダウン症など）、脳性麻痺、摂食嚥下機能障害、構音障害、吃音・緘黙症、難聴など

言語聴覚療法の内容

- 『ことば』へのアプローチ
 - ▶ お子さんが興味を持つ玩具や絵カード、絵本などを使って、言葉の理解や表出を促していきます。
 - ▶ 口や舌の運動、1つ1つの音への意識を高める練習、正しい音を出す練習などを行い、話し言葉や発音へのアプローチを行っていきます。
- 『きこえ』へのアプローチ
 - 身振りや絵カードなどを使って、言葉の理解や表出を促していきます。
 - ※聴覚検査、補聴器などの調整は行っておりません。
- 『コミュニケーション』へのアプローチ
 - お子さんの興味に合わせて関わる中で、人への意識を高め、お子さんにあったコミュニケーション方法を促していきます。
- 『食べること』へのアプローチ
 - 実際の食事場면을評価しながら、お子さんにあった食事形態や介助方法を考え、楽しく安全に食事が取れるよう支援していきます。

言語聴覚療法の使用物品

落ち着いた個室環境でセラピーを行います。
遊びを中心としながら、お子さんに応じて必要なアプローチを行っています。



▲ 実物と写真カードや絵カードとのマッチング課題、色分けなどを通して、語彙力や表出手段の獲得につなげていきます。



▲ 簡単なルール遊びを通して、理解力や人への意識を高める事につなげていきます。必要に応じて、文字獲得へのアプローチも行います。



▲ 発音が不明瞭な場合、音への意識をあげる事や、不明瞭な音の獲得に向けてアプローチを行います。



▲ 食形態や適切な食具などの提案を行います。